

鎮量・鎮吐剤  
日本薬局方 ジメンヒドリナート錠  
**ドラマミン®**  
Dramamine®

承認番号	60AM-575
薬価収載	1952年5月
販売開始	1952年2月
再評価結果	1976年10月

貯 法：室温保存  
使用期限：5年（最終年月をラベル・外箱等に記載）

【禁 忌（次の患者には投与しないこと）】

- モノアミン酸化酵素阻害剤を使用中の患者〔併用により本剤の抗コリン作用が持続・増強されることがある。〕
- ジフェニルメタン系薬剤（ジメンヒドリナート、塩酸メクリジン等）に対し過敏症の患者

【組成・性状】

1. 組成

1錠中：

成 分	販売名	ドラマミン
有効成分 (含量)	日局	ジメンヒドリナート (50 mg)
添 加 物		ステアリン酸マグネシウム トウモロコシデンプン 乳糖

2. 性状

外 形			識別コード	色調等
上面	下面	側面		
			SEARLE 216	白色 割線入り 素錠
直径 8.7 mm	厚さ 3.2 mm	重量 190 mg		

【効能・効果】

下記の疾患又は状態に伴う悪心・嘔吐・眩暈  
動揺病、メニエール症候群、放射線宿酔  
手術後の悪心・嘔吐

【用法・用量】

ジメンヒドリナートとして、通常成人1回50 mg（1錠）を1日3～4回経口投与する。  
予防のためには、その30分～1時間前に1回50～100 mg（1～2錠）を経口投与する。ただし、原則として1日200 mg（4錠）を超えないこと。  
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- 小児、てんかん、甲状腺機能亢進症又は急性腎炎のある患者〔構成成分であるテオフィリン系薬剤の副作用があらわれやすい。〕
- 麻酔施行前の患者〔麻酔の覚醒を遅延させるおそれがある。〕

2. 重要な基本的注意

眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう注意すること。

3. 相互作用

(1)併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
モノアミン酸化酵素阻害剤	本剤の抗コリン作用が持続・増強される。	モノアミン酸化酵素阻害剤が本剤の代謝速度を遅らせることによる。

(2)併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
中枢神経抑制剤 バルビツール酸誘導体 麻酔剤等 アルコール	相互に作用を増強する。	抗ヒスタミン薬は全ての中枢神経抑制剤の鎮静作用を増強し、また、中枢神経抑制剤及びアルコールは抗ヒスタミン薬の中枢抑制作用を増強することによる。
第8脳神経障害を起こすおそれのあるアミノ糖系抗生物質 ストレプトマイシン カナマイシン等	これらの薬剤による難聴を不可逆状態にすることがある。	アミノ糖系抗生物質の耳障害症状を不顕性化することによる。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度について文献、自発報告等を参考に集計した。

	0.1～5%未満	頻度不明
精神神経系		眠気、頭痛、手足のしびれ、手指の振戦、めまい、目のかすみ、ふらふら感、不眠、知覚異常等
過 敏 症 <sup>B)</sup>		発疹、光線過敏症等
消 化 器	胸やけ、胃痛等	
そ の 他		口渇、疲労感

注：投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、減量するなど注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。〔類薬（塩酸メクリジン）の動物実験（ラット）で催奇形作用が報告されている。〕

7. 小児等への投与

構成成分であるテオフィリン系薬剤の副作用があらわれやすいので、小児等には慎重に投与すること。

## 8. 適用上の注意

### 薬剤交付時

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。[PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]

### 【薬効薬理】

ジメンヒドリナートは経口投与でマウス、ウサギ、ヒトの迷路機能亢進を抑制する<sup>1,2,3)</sup>ほか、鎮吐作用にもすぐれ、イヌ、ネコ、ヒトのアポモルヒネ嘔吐を著明に抑制する<sup>4,5)</sup>。

#### 1. 迷路機能亢進抑制作用

(1)健康成人（性別不明）の迷路冷刺激による実験的眼振に対し、眼振発生開始時間を遅らせるとともに眼振持続時間を短縮させる<sup>1)</sup>。

(2)健康成人（男子）の回転運動による実験的動揺病に対し、抑制作用を示す<sup>2)</sup>。

#### 2. 鎮吐作用

健康成人（男女）において、アポモルヒネ投与による催吐症状に対し、鎮吐作用を示す<sup>3)</sup>。

### 【有効成分に関する理化学的知見】

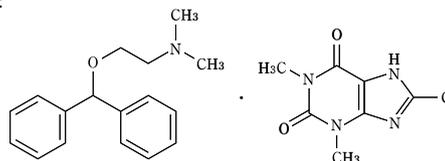
一般名：ジメンヒドリナート (Dimenhydrinate) □

化学名：N-[2-(Diphenylmethoxy)ethyl]-N,N-dimethylamine-8-chloro-3,7-dihydro-1,3-dimethyl-1H-purine-2,6-dione(1/1)

分子式：C<sub>17</sub>H<sub>21</sub>NO · C<sub>7</sub>H<sub>7</sub>ClN<sub>4</sub>O<sub>2</sub>

分子量：469.96

構造式：



性状：白色の結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。

クロロホルムに極めて溶けやすく、エタノール（95）に溶けやすく、水又はジエチルエーテルに溶けにくい。

融点：102～107℃

### 【包装】

ドラマミン：100錠（PTP）

100錠（瓶）

### 【主要文献】

- 1) Gutner LB, et al. Arch Otolaryngol 1951; 53: 308-15.
- 2) Lieven TV. Munch Med Wochenschr 1970; 112: 1953-9.
- 3) Aschan G. Acta Otolaryngol 1967; 64: 95-106.
- 4) White JM, et al. Fed Proc 1950; 9: 325.
- 5) Goethe H. Medizinische 1953; 720-1.
- 6) Wood CD, et al. Aerosp Med 1968; 39: 1341-4.

### \*\*【文献請求先】

ファイザー株式会社 お客様相談室

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

フリーダイヤル 0120-66-4467



\*\*【製造販売元】  
ファイザー株式会社  
東京都渋谷区代々木3-22-7